



トルコ：イスタンブールでの自爆事件

1月6日夕方、イスタンブールの旧市街にある警察署前で自爆事件が発生、これによって警察官1名が死亡、1名が負傷した。犯人は観光客を装った女で、「財布をなくした」と英語で話しながら警察署内に入ったところで、自爆したと報じられた。イスタンブールでは1月1日にも、ドルマバフチェ宮殿付近で警察官に手榴弾を投げつけた男が逮捕されている。事件発生後、ダウトオール首相は、自爆した女の国籍や氏名、所属組織等については、現時点で何も分かっていないと述べたが、1日の事件及び今般の自爆事件は、非合法極左組織「革命的人民解放党・戦線 (DHKP/C)」の犯行ではないかとの見方が強まっていた。

1月8日、現地メディアは自爆したのは、Diana Ramazova というロシア国籍の女で、イスラーム主義組織の「黒い未亡人」の一員であると報じた。同日、エフカン・アラ内務大臣は、このロシア人の女が自爆犯であると特定されたとの短いコメントを出したが、詳細については一切明らかにしていない。解剖の結果、Diana は妊娠していた事実も発覚している。

評価

現時点では Diana Ramazova が「黒い未亡人」の一員であったかどうか詳細は不明である。「黒い未亡人」とは、主に 1990 年代にチェチェン紛争でロシアに男性の肉親を殺された女性だけのイスラーム主義組織とされており、ロシア国内で自爆攻撃を繰り返してきた。もし今回の事件が同組織の犯行によるものだとすれば、トルコはロシア以外を狙った初めての標的とされたことになる。一方で、前日の 1 月 7 日に非合法極左組織 DHKP/C は、今回の自爆事件は同組織のメンバーによるものであるとウェブサイト上で認めている。DHKP/C は 1978 年に設立された、マルクス・レーニン主義を掲げる過激組織で活動目標は、トルコ国内に社会主義国家を樹立することである。トルコ国内のみならず、欧州に支援ネットワークを持つとされ、活動資金はその支援者からの寄附によって賄われていると見られている。この、DHKP/C と「黒い未亡人」との間に直接的なつながりがあったのか、または、Diana がどちらかの組織に属していたのかなど真相は明らかになっていない。2014 年末に、エルドアン・ダウトオール体制で新たなスタートを切ったトルコだが、外交面では、「イスラーム国」への対応を巡り国際社会との溝が深まっており、一時は進展したかに見えたクルド問題も再燃している。内政面では、政権与党の幹部の汚職問題、エルドアン大統領の強権政治に対する不満もくすぶっており、足元のおぼつかない状況が続いている。これにロシアからのイスラーム過激派問題が加わるとなれば、さらにトルコ内政に混乱を来す恐れもある。

(金子研究員)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL : <http://www.meij.or.jp/>